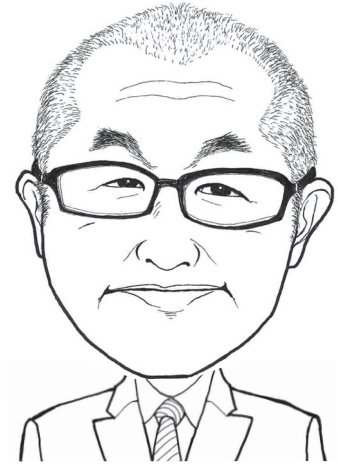


# 名義変更されていない 農地の貸借について

農業委員会長

届け出制度の周知を行うとともに、  
農地のパトロールを強化していく



はしもと てるあき

橋本 晃明 議員

## 問

先般、全国で所有者不明の農地

が24%に及ぶとの報道があった。北海道は1割未満だが、決して他人事ではないと思う。

(1) 名義変更されないまま所有者が死亡し、貸し借りされている農地の実態について把握されているか伺う。

(2) (1) のような農地の場合、相続にかかる多額の費用と労力が壁になり、売買、農地集約が進まず、農業振興上の問題になっているのではないか。

(3) 相続で農地の権利を取得した時、もれなく届け出がされるように、窓口対応を含め体制整備に手を尽くすべきではないか。

## 農業委員会長

(1) 農地の実態について、詳細までは把握していないのが現状であるが、そのような土地はごく少数であると認識している。

今後、地域計画を作成していく中で、筆ごとに

地図に落とししていく作業によって明らかになっていくと考える。

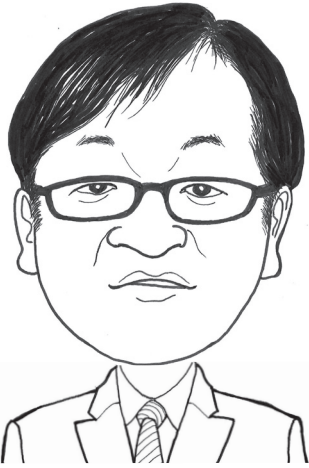
(2) 個人の財産に関することであり、関係者に相続に関わる情報等を随時提供させていただいている。

(3) 各地域担当の農業委員による届け出制度の

周知を行うとともに、農地のパトロールを強化してまいりたい。周知を強化するため、ホームページ等も活用したい。



町内の農地



すずき たかずみ  
鈴木 孝寿 議員

## 清水町の歴史について

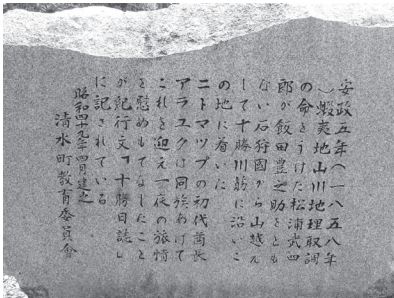
町長 今後も史実を後世に残していく努力をしていく

### 問

ホームページ等で清水町の始まりは十勝開墾合資会社からと受け取れる表記になっているが、今後学校で学ぶ歴史とこれまで町内で認識されている歴史に相違が生まれれば、町内の中でも歴史という共通言語が失われる。町の歴史と開墾の歴史を棲み分けて、渋沢栄一翁という旬な話題も触れつつ、町民全体で共通認識を持つ必要があるのではないか。

### 町長

これまでの町史においては、アイヌ文化を記載するとともに開拓の歴史から現代までの変遷を綴ってきた。開拓の歴史は町の歴史の一部であると認識しており、まちづくりの始まりとして開拓は要素として重要であり、その歴史を知ることが大切である。現在、渋沢栄一翁が新一万円札の肖像



松浦武四郎宿泊の地碑

画になるこの時期に、広く町民の再認識に力を注いでいるところである。開拓の歴史やそれ以外の歴史においても史実は数多くあることを認識し、今後も史実を後世に残していく努力をしていく。

## 町づくり基本条例の考え方について

町長 取扱いについて、慎重に行う

### 問

町づくり基本条例の前文に「皆で情報を共有し、互いに尊重し合い、助け合い、まちづくりに参加する」とあるが、町として隠すつもりはないものの、情報を公表し直すべきは正すといった公開の原則について町の現状を聞く。

### 町長

町づくり基本条例の中に「積極的に町政に関する情報をわかりやすく提供し、まちづくりへの町民参加の推進を図る」とある。個人情報などに配慮しつつ、政策決定に係る情報や行政運営に係る情報については、可能な限りお伝えするよう努める。また、指摘のあった盗聴器問題や中小企業近代化資金の事務取扱の問題等については、この案件だけでなく取り扱いについては慎重に行っていく。